

管内で稲刈りがスタート 「五百川」全量1等米に格付け

南部支店伊場野地区の岩崎芳邦さんが8月27日、本JA管内で最初の稲刈りをしました。品種は極早生種「五百川」で、50㍓を刈取りました。

8月29日には、伊場野倉庫前で県内最初の米検査を行い、出荷された「五百川」58袋（1袋30㍓）全てが1等米に格付けされました。

検査をした齋藤俊之検査員は「今年は高温の影響で若干、白未熟粒が見られたが、米全体としては粒張りが良く、品質の良い米だった」と話していました。

岩崎さんは「今年は気温の高い日が続き、品質への影響が心配されたが、無事に全量1等米となり大変嬉しい。食味にも自信があるので、消費者の方に美味しく食べてもらいたい」と話していました。



稲刈りをする岩崎さん(写真左)
米検査をする本JAの検査員(写真右)

良品質な大豆の生産拡大を目指し (株)ミツカン工場で視察研修



会員35人が参加した視察研修会

本JA大豆・麦生産組織連絡協議会は8月22日と23日、視察研修会を開き、群馬県の(株)ミツカン館林工場を視察しました。

館林工場では、古川産タンレイを年間2千トン使用し、「金のつぐみ きわり納豆」を1日あたり100万食製造しています。

館林工場の山野工場長は「生産者からお預かりした大豆を大切に加工し、消費者に喜んでもらえる商品の製造を心掛けています。今後とも良品質な大豆の生産をお願いしたい」と説明しました。

同協議会の鈴木正一会長は「平成30年産の大豆作付面積は1,340㍓だが、実需者からは生産拡大を要請されている。これからも作付面積の拡大と、安全・安心で良品質な大豆の生産を推進していきたい」と話していました。

夏休みの工作に 葬祭会館でジェルキャンドル作り

本JAは7月27日、やすらぎホール三本木で葬祭会館の見学会を開き、参加者を対象とした夏休みの工作教室「ジェルキャンドル作り」を実施しました。子どもを対象とした教室を開くのは初めての試みで、28人が参加しました。

講師は、ワークショップや陶芸教室を開く「はなゆつ仙台」の高木優子さんが務め、「中に入れる砂は好きな色を組み合わせて、思い思いの作品を作りたいよ」と指導しました。

参加者は、ガラスの入れ物に色づけした砂を何層も重ねてグラデーションを作り、動物の小物で飾り付け。流し込んだジェルキャンドルが固まる様子を楽しみながら作品を完成させました。

参加者は「初めて作ったけれど楽しかった。夏休みの工作にしたい」と満足した様子で話していました。



ジェルキャンドル作りを楽しむ参加者と講師の高木さん(右)